令和 6 年度 江南区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和 7 年 3 月 27 日（木）午後 2 時から午後 4 時 10 分
会場	江南区役所 302 会議室
出席者	江南区自治協議会委員：23 名（欠席 7 名） 教育委員：乙川千香委員、石坂学委員 事務局：教育総務課教育政策室長、学校支援課指導主事、江南区教育支援センター所長、同センター指導主事、亀田地区公民館長 江南区役所：区長ほか 13 名 傍聴者：1 名
報告	新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～について
自治協議会 中野会長	<p>それでは、次第に沿って進めていきます。いつもながら、ご意見のある方は挙手のうえ、簡潔明瞭にお願いいたします。</p> <p>では、初めに報告から始めます。(1) 新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～について、教育委員会から報告をお願いいたします。</p>
教育総務課教育政策室長	<p>教育総務課教育政策室長の植村と申します。本日は貴重なお時間をいただきまして大変ありがとうございます。私からは新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～について、少しお時間いただきまして説明をさせていただきます。</p> <p>こちら、そもそも何かというと、今まで新潟市の教育ビジョンという風と呼ばれていた新潟市の教育計画のことです。</p> <p>初めに本市では平成 18 年、今から約 20 年前に「新潟市教育ビジョン」を策定し、基本目標を学校教育、生涯学習、教育行政の 3 点からお示し、目指す方向についても同様にこの 3 点でお示ししていました。</p> <p>また、次代の新潟を支え、世界に羽ばたく心豊かなこどもを育み、市民が生涯を通じて学び育つ社会づくりのための教育の方向性と在り方を明確にしてまいりました。</p> <p>特に本市の教育の大きなテーマとして、「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」を掲げ、学校と地域が協働する取組を進めてきたほか、本市の強みである農業や文化、子育てなどとも連携し、本市の特色のある教育を進めてきました。</p> <p>これまでの成果について、市民の皆様の声をお聞きするため、昨年度アンケートを実施させていただきました。</p> <p>中でも評価をいただいているのは、「情報教育の充実・ICT を活用した教育の推進」、「保護者や地域と連携した安心安全な学校づくりの推進」、「地域と共にある学校づくりの推進」の順となっています。</p> <p>一方で「取組があまり進んでいない」のは、「教職員への支援体制の充実」、「教育関連施設の整備・充実」、「家庭教育・子育て支援の充実」の順となっております。</p> <p>同時にこどもたちからも自由記載のアンケートを実施いたしました。こちらは自由記載のうち出現回数、つまり回答数が多いものほど、図に示されて</p>

いる言葉が大きく示されているという見方になるものです。

ご覧のように設問1「あなたが将来のために学びたいことや挑戦したいことは何ですか。」については、「英語」を挙げている他、「コミュニケーション」という言葉が共通してどの学年も挙げられています。このようなことから、今後も児童生徒の英語力を高めることや、コミュニケーション力を高めることなどが必要であると言えます。

次に設問2「みんなが幸せに過ごすために、あなたはどのような力を身に付けると良いと思いますか。」という質問については、どの学年も「思いやり」という言葉を挙げています。このようなことから、今後も心の教育を大切にする必要があるとと言えます。

次に設問3「現在もしくは将来、あなたが地域や社会のために貢献したいことは何ですか。」という設問では、「ボランティア」が大きくなっており、改めて地域との絆を深め、地域への愛着や誇りを醸成することが大切であると考えています。

次に設問4「あなたが安心して過ごすことができる学校はどのような学校ですか。」については、共通して「いじめがない」という言葉を挙げています。このような結果からも、誰もが安心して過ごすことのできる学校づくりが必要であると考えています。

このように市民の皆様や子どもたちの声のほか、教育ミーティングでいただいた自治協の皆様のご意見も参考としながら、新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～を策定させていただきました。

それでは、新潟市教育振興基本計画～にいがた学びのコンパス～の内容について説明いたします。

一つ目、策定趣旨・位置付け・構成についてです。本市では先ほど申し上げたように、平成18年に現行の「新潟市教育ビジョン」を策定し、様々な施策を展開してきました。

しかしながら、少子高齢化の加速やグローバル化のさらなる進展など、社会を取り巻く環境が大きく変化する中、これまでの成果や課題などを踏まえ、この度、新たに本市の教育の方向性を示す必要があると考え、本計画を策定いたしました。

計画期間は令和7年度から8年間となり、基本構想では本市の教育が目指す人間像、基本計画では基本的な方向性、実施計画は基本計画を具現化する各種事業を記しています。

全国的な動きとしては、グローバル化の進展やSociety5.0の到来など教育を取り巻く環境が大きく変化しており、国では「第4期教育振興基本計画」を策定し、今後の教育政策に関する基本的な方針を定めました。

新たな計画においては、本市の強みである「さまざまな困難を乗り越える力」、「充実した地域の力」、「人材輩出の下地」などを踏まえるとともに、これまでの取組における成果や課題を踏まえ、本計画を策定いたしました。

具体的な課題としては、将来の夢や目標をもつこどもの割合が減少するほか、生涯学習ボランティアの高齢化や固定化、不登校児童生徒の増加などが挙げられ、教育に関わる課題が多様化・複雑化しています。

そのような中、「生まれてから一生涯を見通した幅広い視点で新潟市民の生活が心身ともに豊かになる教育」「誰一人取り残さない、一人一人の可能性を引き出す教育」の二つをコンセプトに、本市の教育が目指す人間像を「しなやかに 世界と未来を 創る人」と設定いたしました。なお、この「しなやか」の言葉は、「粘り強さ」や「たくましさ」という意味も含んでいると考えています。

「世界」にはグローバルな世界のほか、自分が関わる身近な地域社会も表しています。既成概念にとらわれず、主体性と挑戦する気概をもち、新たな価値を創造しながら、しなやかに「世界」や「未来」を創り出していく新潟市民であってほしいという願いを込めています。

そして新潟市の教育が目指す人間像の実現に向けて4つの基本方針のもと、14の基本施策を定め、総合的・体系的に進めていきたいと考えています。

それでは、一つずつ、方針ごとに少し詳しくお話をさせていただきます。

基本方針Ⅰ「生涯を通じて学び、夢や希望に向かって挑戦し続ける人づくり」では、これからの時代、年齢を問わず学び続け、夢や希望に向かって挑戦し続けること、生涯学習を通じて自らを高めることが大切であり、教養を高めることや、健康に関心をもつことなどが、ウェルビーイングの向上につながると考えています。

「基本施策1」では、多様な学習機会の提供、循環型生涯学習の推進に一層力を入れるとともに、「基本施策2」では主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組を進めていきます。「基本施策3」では、こどもたちが夢や希望に向かって挑戦し続けられる取組を進めるほか、「基本施策4」では、自らの健康に関心をもち、主体的な健康づくりができるよう支援してまいります。

少し具体的な内容について補足をさせていただきます。例えば、「基本施策1」では、生涯学習ボランティア育成事業などを実施し、市民の皆様が生涯を通じて学習した成果を人づくりや地域づくりにいかす循環型生涯学習を推進していきます。例えば、「基本施策2」では、こども一人一人の確かな学力を育成するために教育活動を充実させるとともに、本市の特色である「アグリ・スタディ・プログラム」に基づく体験学習を通じた学力の育成にも力を入れていきます。

次に基本方針Ⅱ「豊かな人間性と高い志をもち、協働しながら新たな価値を創造する人づくり」では、市民一人一人がお互いを尊重し、認め合い、多様性のある社会を実現していくことが重要であり、豊かな人間性と高い志、協働による新たな価値の創造は持続可能な社会の維持・発展につながりま

す。

「基本施策5」では、様々な違いを認め合い、共生する社会の実現を目指すほか、誰もが安心して過ごせる学校づくりを進めるとともに、「基本施策6」では、多様な教育的ニーズに応じた教育環境の整備を進めるほか、「自分らしく学び成長する」特別支援教育を推進してまいります。「基本施策7」では、歴史や文化などへの理解を深め、諸外国の人々と互いの文化などを理解し合い、信頼関係を築くとともに、「基本施策8」では、自信と誇りをもって生きることができる教育を進めてまいります。

例えば「基本施策6」では、不登校・不登校傾向対策事業など、多様な児童生徒の学びを保障するための居場所づくりや安心して過ごせるための環境づくりを進めます。例えば「基本施策7」では、国際交流推進事業など、日本や諸外国の歴史文化などに対する理解を深め、諸外国の人々と互いに信頼関係を築けるような教育を推進します。

次に基本方針Ⅲ「地域との絆を深め、郷土に誇りと愛着をもって社会に貢献する人づくり」では、地域課題の解決につながる実践的な学びなどを通じて、郷土への誇りや貢献意欲を醸成していきます。

「基本施策9」では、ネットワークづくりによる社会の変化に応じた教育活動を改善するほか、豊かな体験活動や多様な学習機会を提供するとともに、「基本施策10」では、本市の特徴である農業をはじめ、歴史や文化などの本市の魅力に気付き、ふるさとへの誇りを培う取組を進めます。「基本施策11」では、子育て中の保護者も安心して学べる機会などを提供するほか、悩みを共有できる仲間づくりなどの取組を進めます。

例えば、「基本施策9」では、地域とともにある学校づくり推進事業を実施し、学校と地域が連携してこどもの学びと成長を支えていきます。例えば、「基本施策11」では、ブックスタート事業など乳幼児期からの家庭での読書習慣を形成するために、図書館と保育施設などが連携し、発達段階に応じた効果的な取組を進めてまいります。

最後に基本方針Ⅳ「多様な学びを支える教育環境の整備・充実」では、安心して学びに向かうことができる教育環境を整備するほか、教育関係職員が専門性を高め、その力を発揮できる体制を整備・支援いたします。

「基本施策12」では、教育機会の確保に努めるほか、中学生が継続してスポーツ活動などに親しめる環境整備を進めるとともに、「基本施策13」では、こどもたちが学びのコミュニケーションツールとしてICT機器を活用できるよう、指針等の作成や必要な環境をさらに整えていきたいと思っております。「基本施策14」では全ての教職員がいきいきとこどもたちと向き合うため、学校や地域などが一体となって働き方改革を推進します。

例えば、「基本施策13」では教育DX環境整備事業などを実施し、児童生徒が学びのコミュニケーションツールとしてICT機器を活用できるよう、環境の整備や教職員の研修を充実させていきます。例えば、「基本施策14」で

学校支援課
八木指導主事

は、多忙化解消対策の推進など、市民に信頼される教職員を育成するとともに、教職員がいきいきと子どもたちと向き合うため、保護者や地域と一体になって教職員の働き方改革を推進します。

以上が「新潟市教育振興基本計画」の主な内容となります。この計画を本市の学びのコンパスとし、教育を通じて市民の皆様が豊かで幸せな人生を送れる社会の実現を目指し、各種事業を展開していきたいと考えております。

以上が私からの説明になります。

引き続き時間が長くなって申し訳ございませんが、教育委員会の学校支援課指導主事の八木と申します。本日は貴重な時間をいただきまして、本日もお配りさせていただきました「中学生のための地域クラブ活動推進方針」について、少し説明をさせていただきます。

この推進方針は、将来にわたり、子どもたちがスポーツ・芸術活動・文化活動に継続して親しむことができる機会の確保に向けた本市における基本的な方針とスケジュールなどについてまとめています。

時間の都合もありますので、特にというところを説明させていただきます。

では、表紙を開いていただきまして、2ページ、3ページでございますけれども、こちらについては背景を具体的に書かせていただきました。4ページも具体的に書かせていただきましたので、またお時間あるときに見ていただければと思います。

そして5ページ以降ですけれども、具体的な取組ということで記載させていただいております。1番の基本方針、そして2番の具体的な取組が出ておりますが、(1)(2)ともに記載の通りです。

そして6ページを開きください。(3)実施主体というところを見ていただくとありがたいです。地域の実情に応じて、学校と関係する組織をはじめとして、既存のクラブチームや地域のスポーツ団体、文化・芸術団体、民間団体など多様なものを想定しながら実施主体の確保に努めていきます。

現在、新潟市では団体リストというものを作成させていただきまして、ホームページ上にアップをしております。その情報を子どもたちがタブレットなどから情報を得て、自分がやりたいなと思うものを探す、そしてそちらの方で活動できるようにということで取り組んでおります。こちらについては、今まで学校の部活動にあったような、スポーツ、それから文化・芸術、例えばバスケットとか野球とか、それから美術とか吹奏楽とかっていうもの以外にも、現在チアリーディングとか、それから空手とかスポーツチャンバラとかそういったものも今掲載をしております。今のところ新潟市全体で50くらいのクラブを掲載しているところであります。

江南区でも16クラブが掲載をしているという形になっております。このような形で子どもたちが取り組めるような、そういったクラブを増やししながら、そしてそのクラブを周知していきたいなというふうにしております。

そして、このような周知のために体験会というのを今年度も各区で開催を

させていただきました。おかげさまで参加者 1,400 人ぐらいから来ていただきまして、体験会、各種目活動に体験していただきました。令和7年度につきましても体験会を行う予定です。具体的には江南区で言いますと、12月20日に亀田総合体館をお借りして、こちらの方で、今年度の反省を踏まえながら体験会をやっていききたいなと思います。

では、続いて(4)指導者のところをご覧ください。やはり実施主体があっても指導する人がいないとなると、なかなか運営も難しいのかなということでもありますので、指導者の育成なども努めていききたいなと思っております。

こちらについても、指導する方がホームページ上に動画をみてこのように指導すればいいんだと分かる具体的な動画を掲載させていただいておりますし、今後県のスポーツ協会などとも連携しながら指導者育成の機会を増やしていきたいなと思っております。また、指導者をリストに掲載させていただきました、クラブの方で自分たちのクラブでこの指導者から教えてもらいたいというような指導者リストというものも県とタイアップしながら作らせていただいております。現在 55 名ぐらいの方が指導者リストへ掲載していただいております。そして、クラブの方がその方を見て、自分のところで教えてもらいたいということになりますと、新潟市の地域クラブ推進室に連絡がありまして、その方とクラブのマッチングを図っていくというようなことも現在させていただいているところであります。

では、続いて(5)の活動場所をご覧ください。7ページになるでしょうか。現在、地域クラブが中学校施設を利用できるようにということで、今年度当初に学校の体育館、それから学校の職員玄関にキーボックスをつけまして、そしてクラブの方が学校と同意書を交わしながら、そのキーボックスの番号をいただいて、そしてクラブの方がその番号で鍵を取り出し、そして開けて自分たちで使うことができるようなことを今行っておるところであります。体育館はセキュリティシステムがかかっていないので使いやすいのですが、職員玄関から入りますとセキュリティシステムがあつたりしますので、今後使いやすくなるように、また学校としてもやはり職員がいない状態でセキュリティを解除するとなると、防犯上のことも心配なってきますので、そのようなところもクリアしながら、クラブ団体が職員玄関から入って、音楽室やそれから技術室を使ったりできるような体制を今後作っていききたいなと思っております。そして、特に時間帯につきましても、今でも中学校の夜の解放は行っているのですが、今後、午後5時から7時までの時間ですけれど、今まで部活動で使っていた時間、これが令和8年には部活動が行われてないという形になりますので、その時間帯について普段使えるように、また休日についても同様ということ、これからスムーズな展開ができるよう進めているところであります。

続いて(6)地域クラブの設立支援をご覧ください。今年度より円滑にクラブが新設されるように、市独自の助成金制度を創設させていただきました。

こちらについては、指導者が教えて謝金というような形で、それに当てられるような補助金制度という形でさせていただきました。年間でマックス 50 万円までクラブが申請すると、それを補助できるというような体制であります。こちらについても、令和 7 年度についても同様な補助金を継続して、クラブを設立しやすいような体制を作っていきたいと思っています。

では、続いて 8 ページ、9 ページをご覧ください。こちらについては、生徒、そして地域・学校にとってこの地域クラブ活動が推進されると、どのような期待される効果があるのかな、ということに記載したところがございます。後ほどご覧ください。

そして最後です。10 ページにはおおまかなスケジュールということで書かしていただいております。本来でありますと、この推進ですけれども、6 年度の前半ぐらいに示せば良かったのですけれども、このタイミングになってしまいました。ただ活動としては、推進としては進んできておるところでございますので、さらにまたこの推進をスピードアップさせていきたいなと思っておりますので、また皆様方から気づかれたところや、それから「こうしたらさらにいいんじゃないかな」というような意見をいただければありがたいなと思っております。

そして、推進方針には記載されていないのですけれども、来年 7 年度からはコーディネーターという立場を新設する予定になっております。こちらについては、先ほどもお話しさせていただいたクラブの設立、そして子どもたちがクラブに入りやすいような環境づくりということをコーディネートするというような立場になるのですけれども、そのようなコーディネーターを設置して、そしてさらに子どもたちの活動の場を広げていければなという風にして思っております。現在、スポーツ庁、文化庁では有識者会議を行っております。まもなく最終取りまとめというものが出る予定になっておりますので、そちらの方も見ながら、国の動向を見ながら市の方針としてもしっかりと随時見直しも行っていきたいなと思っております。早口雑駁な説明で大変申し訳ありませんでした。以上で終わらせていただきます。ありがとうございます。

自治協議会
中野会長

今ほど新潟市教育委員会の方からいがた学びのコンパスと中学生のための地域クラブ活動推進方針についての説明がありましたが、このことについてご質問等ございますでしょうか。

自治協議会
井田委員

両川地区コミ協の伊田と申します。一つお聞かせいただきたいのですが、このいがた学びのコンパスの前の平成 18 年度に作られた教育ビジョンのところの目指す方向というところで、学校教育と生涯学習と教育行政の方向、今度新しいところにはきちんと生涯学習というよりも社会教育という言葉が使われているのですが、そこで何か例えばこの新しい教育振興基本計画のところ、社会教育をどういう風な形で位置付けていくのかということが、もし分かるような項目がありましたら是非お聞かせいただきたいのです。

<p>教育総務課 教育政策室長</p>	<p>が。 ご質問ありがとうございます。今まで学校教育と社会教育と分けていたと捉えていましたけれども、学校教育も社会教育も教育という観点では一緒でありますし、そこは一体的にとらえていこうと我々は思っています。学校教育で行うことはもちろんございますし、子どもたちも社会教育に全く関わっていないわけではありません。大人と子どもをあえて分けるのではなく、あるいは学校教育と社会教育と分けるのではなく、一体的に捉えていくというコンセプトで今回策定しております。前回のビジョンのように分けて行っているのではなくて、全体的な市民像という形で我々は考えております。</p>
<p>自治協議会 井田委員</p>	<p>生涯学習という視点でいくと多分子どもと大人ということで生涯にわたってという中で、多分括られているかと思うので、今回本当に社会教育という名前が出てきたことが今までになかったので、すごく画期的だな、と思ったので、そういう風に申し上げました。</p>
<p>自治協議会 加藤委員</p>	<p>早通コミ協の加藤と申します。具体的に基本政策 14 のことでお聞ききたいのですが、私たちのように地域の者が教職員の働き方改革にどの程度、地域・保護者が一体となったというところが、すごくイメージ的には今までやっていた例えばボランティア的な動きしか地域としてはイメージがないのですが、その他に例えば免許のない地域の人たちが、習字とかそういうのはあると思うのですが、どの程度まで入っていかとか、地域としては先生方の変革をなんとか軽減したいというのほどの地域もみんな思っているとは思いますが、なかなか学校の中に入り込むことは非常に難しい面があるような気がするのですが、もう少しそのイメージ的に地域・保護者が学校の働き方改革に関わる関わり方について、イメージをお持ちなのかどうか、お聞きしたいのですが。</p>
<p>教育総務課 教育政策室長</p>	<p>ありがとうございます。コミュニティ・スクールが始まりました。これについては、地域の皆さま、保護者の皆さまが今までなかなかちょっと意見がしにくかった、学校の運営の部分についてもご意見いただく、ご表明いただくという場になっておりますので、そこに代表の方ではありますが、ご参加いただき、ご意見いただく中で、こういう協力をしていきたい、あるいは学校の方からもこんな協力をいただきたいという話合いができる場としてご活用いただければと思っております。パートナーシップ事業についても同様です。そのようなことで今我々としてもコミュニティスクールをより拡充・強化していきたいと思っておりますので、その辺りからまずはご協力いただければと思っております。自治協の皆さまやコミ協の皆さまからいろいろなご意見をいただき、ご協力いただきながら進めていくことが、今後学校と地域が一体となるという観点で進めていけるのではないかと思っております。</p>
<p>自治協議会 加藤委員</p>	<p>私はコミュニティ・スクールの委員もやっているのですが、いろいろな地域を聞くとすごく温度差があって、どの程度校長先生の学校運営に私たちが口出しできるのだろうと思いました。「いいんですよ、言っていたいて」</p>

自治協議会
樋浦委員

とは言われましたけども、学校の内情を分からない地域・保護者が意見として出すのは構わないと思うのですけども。私は根本的には働き方改革って要するに人がいっぱいいないとダメだと思っています。先生方の時間を奪っているものは何なのかというところを検討していただきたい。私もコミュニティ・スクールのときそういう話はしますけども、学校では難しいレベルなのではと思って聞きしました。大体でもイメージ的には分かりました。

江南区民生委員児童委員連絡協議会の樋浦です。今、加藤委員より働き方改革に関わるところで具体的などというご意見が出ましたので、高橋委員の方が詳しいと思うのですが、ちょっと私が見聞きした範囲で具体的な事例がありますので、お答えします。

例えば、教職員の働き方改革というところで、今年度中に私がいます地域の丸山小学校ですが、地域の方から関わってもらいたいという具体的なものは、例えば特に低学年の給食の時間です。教職員の方も勤務時間内でありますので、そういったところにその時間だけでもいいので、地域の方がそこにボランティアとして入っていただきたいとか、それから新1年生が入学しまして、給食が始まる時に、皆さん児童で配膳しますが、そういったところに地域の方が手は出しませんが、上手にこう促して子どもたちにうまく回るように見守ったりとか、そんなところが具体的なものであるかと思うのです。もうちょっとこんな所っていうことがあれば、高橋委員から補足していただきたいと思うのですが、よろしくお願いします。

自治協議会
高橋委員

大江山コミ協の高橋です。教職員の働き方改革というような側面もあろうかと思うのですけども、どうしても特に小学校になると、先生方、職員の皆さんが休憩時間というのがほとんど取れない。朝登校されて、下校を見送るまで通しになってしまうわけです。その間、教科によっては他の先生が付いたりすることもあるかと思いますが、その間を子どもたちが安心して安全な授業を受けられるようにということで、地域の方の協力を求めているんですけども、さっきもおっしゃいましたが、学校に入ることが、地域の方々っていうのはちょっと抵抗があるのではという風に感じています。私もまだ学校に関わるようになってから日が浅いのですが、特に学校の運営に携わる管理職の先生方が2年、長くて3年ぐらいで学校が変わっていったら。

そんな中で築いた風土というか、土壌が引き継がれているかという、そうでもないような部分もあろうかと思うのです。そうした中で、地域と連携をもつという意味ではもう少し地域に根ざすような取組を考えていただけたらという風に思います。江南区だけを取ったとしても、亀田地区とまた郊外の方になってくると、商店街・市街地という地域と農水産を中心としている地域、広さのわりには児童の数が少ない地域というものもあると思います。そういったところを一律に評価というか、取り組まれたとしてもどうしても温度差は起きてしまうと思いますので、そういったところも是非見た上で、よ

<p>自治協議会 植村委員</p>	<p>り具体的な形で方針を出していただけると学校に関係させていただいている側としても、より具体的に取り組めるという風には感じております。とりとめの話になりましたけども、参考にいただければありがたいです。以上です。</p> <p>曾野木コミ協の植村です。私の方は部活動の地域移行について伺いたいのですけれども。具体的な取組の(2)部活動のあり方を見直しの中で、学校ごとに令和8年度に向けて部活動のあり方を見直すことと書かれているのですが、学校ごとに部活動として残す学校とそうでない学校があるという認識でよろしいのでしょうか。その場合、学校の部活動という形で残る場合の実施主体は他とは違うのでしょうか。</p>
<p>学校支援課 八木指導主事</p>	<p>あともう一つ。今年度の体験会の参加者が1,400人ということだったのですけれども、実際の対象者がどれぐらいいて、そのうちの1,400人、どれぐらいの割合のお子さんたちが体験会に参加されたのかな、というのを教えてください。お願いします。</p>
<p>学校支援課 八木指導主事</p>	<p>まず一つ目のところですよ。学校ごとに令和8年から活動をするしない、またはその部活動のような活動を放課後するというような学校もこれから出てくるかな、と思っています。学校で部活動をするというところについては、平日の概ね4時45分までは部活動としてやりますので、そちらについてはあくまでも学校の教育活動の一環として行うという形になります。そして、部活動のような活動ってことで、先にお話しさせていただきましたけれども、子どもたちで放課後の時間、毎日じゃないのですけれども、月曜日と木曜日、例えば自分たちがこんな活動をしたいということで、自発的に呼びかけて、例えばけん玉のクラブとか、やりたいと言って、その子達が集まってやるとかですね。そういったようなことを行っている学校もありますし、今後そういった形で取り組んでいくっていうのもあるかなと思っています。</p>
<p>自治協議会 植村委員 学校支援課 八木指導主事</p>	<p>では部活動として残さないとなった学校は、基本的にはその地域クラブの方で17時から19時の方の枠ですよ、という捉え方でよろしいでしょうか。</p> <p>はいそうです。部活動は学校の教育活動の一環としては学校としては行わないということですので、その子たちが自分の住んでいる近くで、気軽に活動できるような地域クラブを今、新潟市として作っていきなと考えております。</p>
<p>自治協議会 植村委員</p>	<p>それが例えば学校の体育館を使うこともあるよ、公民館のこともあるし、コミュニティセンターみたいなところもあるよ、っていう捉え方でよろしかったでしょうか。</p>
<p>学校支援課 八木指導主事</p>	<p>はい、そうです。二つ目ですけど、体験会の1,400人とお話しさせていただきましたけれども、今具体的な数値を持ってきてなくて、頭の中で1,400だったな、ということです。</p>
<p>自治協議会</p>	<p>対象者は今年度の何年生とかそういうものはありますか。</p>

植村委員

学校支援課
八木指導主事

自治協議会
岡野委員

来ていただくのは、小学生から中学生までになりますし、そして一緒に来られた保護者の方も含めてという形になっています。

公募委員の岡野でございます。私は地域クラブみたいところで活動しています。西区、中央区、江南区はその武道館ですか、アスパークに併設されている武道館ですけど、私は空手の指導員というのをやっていて2、3ご質問なのです。

活動ですね、それぞれの体育館みたいなどころを使えるということなのですが、我々の活動時間は社会人が指導員になっていきますので、ほぼ5時以降なのです。大体7時ぐらいから始めて9時ぐらいまででえやるのですけども、他のクラブが隣では柔道やっていたり、剣道やっていたりするのですけれども、大体同じような時間帯でやっておられるようです。そうしますとちょっと早いのかな。5時から9時までという時間帯ですね。

それと場所が学校の体育館あるいは武道場みたいなどころなのですが、冬はものすごく寒いですし、夏はものすごく暑いんですね。私も寒暖計を見るのですけれども、冬場は大体2度、夏場が35度以上、そういうところで学校の部活動でこれよくやっているなと思ったのですが、指導員の方がちょっと参っちゃいまして。私ども西中の武道館借りていたのですけれども、私も30、40代の頃は頑張ってやっていたけれども、60歳を過ぎて、だんだんこのクラブも指導員が高齢化しているみたいで、もうちょっとあったかい暖房施設、冷房施設があるようなところでやっていますので、その辺りもご配慮いただければな、と思っています。

それから謝金なのですけれども、指導者に謝金っていうことなのですが、我々先ほど言いましたように、三つの区で指導員大体7、8人でやっているのですが、団体で使いたいのですよね。我々ボランティアですから、それぞれ個別に礼金なんていないのですけれども、これは個別でないとダメだって言うのです。団体には支払えない、個別で、仮にじゃあ一人代表してもらえばいいじゃないか、とおっしゃるかもしれませんが、その方が源泉徴収だとか、税金の関係でそんなのいないなというような話もありました。

あともう一つ、中学の部活動ですと先生のクラブにおける責任の範囲みたいなのが、よく分かりませんが、学校教育法かなにかで決まっているかな、と思うんですが、我々亀田空手スポーツ少年団というスポーツ少年団に入っているのですが、そこで色々保険をかけたたり、子どもたちもかけてますし、指導者にもかけています。その程度の保険なのですけれども、これが部活動の代わりなのだということで、保護者の方から例えば空手ですので、擦り傷切り傷ありますけれども、指導員の責任はどうなのかみたいなことを聞かれるとちょっと困るな、というように心が心配になってきました。昨年度の体験会ですか、我々も出て皆さんの話を聞いたり、来られた人の話も聞いたりしていたのですけれども、できれば積極的にですね、役に立つこと

学校支援課
八木指導主事

であれば従来通りやっていきたいのですが、システムが変わる中で、今申し上げたような活動場所、時間それから謝金、それから指導者の責任、これからの検討材料なのかもしれませんが、どのようにお考えかなと思ひまして。質問させてもらいました。

質問ありがとうございます。まず地域クラブ活動の方に携わっていただきまして本当にありがとうございます。一つ目の活動場所についてなんですけれども、中学校の体育館、武道場、まだ冷房ついてない状態です。中学校、小学校もうそうなのですけれども、まずは今、教室に冷房がつけました。そしてこの後、特別教室ですね、こちらの方に今冷房をつけようということをやっています。いずれは体育館とか武道場にもつけていただけるとありがたいかな、という風にして思っておりますが、なかなか体育館、武道場に冷房になると相当なお金になってきますので、そのところもまた施設課に声をかけていきたいなと思ひます。寒いときの暖房なのですけれども、今でも部活動に関わらず教育活動をやる時に、寒いのでジェットヒーターをつけるのですけど、バーっていうやつですね。工事現場でよく使うやつですけれども、やはり火を使うことは危ないっていうところもあつたりしますので、学校解放と同様に基本的には火の出ないそういったものを使いながら、あつたまりながらやってもらえればなと思ひしております。暑いときについては学校の教育活動、体育もそうですし、部活動時にも 30 度超えたときに、危ないっていうときには活動をやめている状態です。活動することも大事なのですけれども、子ども達の安心安全ということを大事にしながら、やっていきたいなと思ひます。

二つ目の謝金についてです。いろんな制限があつて本当に申し訳ないなという風にして思ひしております。ボランティアで「お金はいいんだよ」って言うことで言うてはいるのですけれども、長期的に持続可能なクラブを考えたときに、指導する方がある程度謝金、交通費となるものがいただけるということが大事なのかなと思ひます。ただ、その支払い方法について、団体に一括で出せないっていうところについては、今後検討させていただきたいなと思ひしております。

三つ目、指導者の責任のことについてですけれども、スポーツ保険を一人で 800 円を子どもにかけていただいて、どのぐらいの保証額になるかな、というところが分からないところはあるのですけれども、こちらについては、部活動のときには学校のいわゆるスポーツ振興保険ですけれども、これ以外のところについては、やはりスポーツ協会の保険などに入らせていただいて、安心安全に行つていただけるようにという考えでおります。今後、責任の所在とか、そういったところについて心配なされる部分があるかなと思ひますけれども、今、団体規約というようなところで、何かあつたときにはこういう風に対応するというので、クラブの方でもやっていただきまして、そして先ほどお話ししたように、ある程度指導者の方たちにも研修を進んでいた

<p>自治協議会 岡野委員</p>	<p>だいて大きなトラブルにならないように、というまず事前のところかなという風にして思います。そここのところも参加する保護者の方も任せっきりでなくて、みんなでやっていくのだからというふうな雰囲気づくりを今後もしていきたいなと考えています。</p> <p>ありがとうございました。活動の場所をそれぞれのクラブであちこち探しているのですよね。ただ、多くの種目競技、あるいは文化活動もそうでしょうけど、そういった場合、場所がなかなか見つからないケースが多くないかなと思いましたので、その辺り質問させていただきました。</p>
<p>自治協議会 中野会長</p>	<p>ほかにございませんか。では私のほうから、中学校の部活動に関して、スポーツ系の部活に関しては細かく分かるのですけれども、文化系の吹奏学部だったり、美術部だったり、個人では負担になるような道具を使うような部活動もあると思うのですよね。今までは学校の道具を借りて行っていたものを、今度個人でとなるとなかなか難しいと感じているのですけれども。</p> <p>中学校の先生になるときに、こういう部活の指導もしたいから中学校の教員を目指した方とかもいらっしゃると思うのですけれども、文化系の部活に関して具体的なものがちょっとあまり見えてこないもので、その辺りってお話進んでいるのでしょうか。</p>
<p>学校支援課 八木指導主事</p>	<p>ありがとうございます。おっしゃるとおり吹奏楽を始めとする文化芸術の分野については、今クラブの登録も掲載も少ないところでございますし、これから強化していかなければならないかなと思っております。具体的には連盟・協会さんと協力しながら、そしてお話をいただいたように、先生方の中でやっぱり教えてもいいよ、教えたいんだよっていう人ですね。そういった方たちとも連携しながらクラブの方も立ち上げていきたいなと思っておりますし、その吹奏楽の楽器については高額なものもあつたりしますので、今後高額なものを個人で全部買え、というのはなかなか難しいかなと思っておりますので、今学校で所有している楽器が今後もしかすると、この学校ではもう使わないとか、そういったものがあるかもしれませんので、それを今後調査かけまして、それをこうレンタルできるような方法とかを探っていきたいと思っております。</p>
<p>自治協議会 中野会長 学校支援課 八木指導主事</p>	<p>それも、令和8年度までに行う予定ということですか。</p> <p>文化部については、これから特に令和7年度に力を入れていきまして、令和8年度から全てが揃うかと言いますと、なかなか難しいかな、と思っております。けれども、できる限りグッドスタートということで取り組んでいきたいなと思っております。</p>
<p>自治協議会 中野会長</p>	<p>はい、ありがとうございます。あともう1点、この委員の中にも先ほど加藤さん言われたようにコミュニティスクールの委員さんをされていたり、地域教育コーディネーターをされていたりする方が数名いらっしゃるのですけれども、先ほども地域との連携っていうところですね、コミュニティスクー</p>

ルが全面に今出ていますけど、いくつか話を聞くと、会議のあり方自体も割と内容が学校の報告、いわゆる昔の学校評議委員会がスライドして CS になったようなところが割と多いので、その評議委員会での報告のようなものが主流で地域の方の話す時間があまり持ててないのかな、という意見を何校か耳にするんですね。こういう地域の子どもたちにしていきたいな、っていう願いと、学校のこういう子どもたちに育てたいっていうことがマッチングして、互いに協力しあって子育てしていこうってことだと思うんですけども、なかなか現状を見ると、そこまで行ってないようなところが現状なので、会議の方として協議する部分も確かに大切だとは思いますが、そういうところを学校によってやり方違うかもしれませんが、事前資料としてこう配布させていただいて、それを見てその会議の中で話ができる、こういうことであれば、こういう子どもたちに地域の人たち参加している委員さんの中にはこういう風にしていきたい、いったらいいじゃないかとか、こういう風にしていきたいね、とかっていう意見が出しやすいのかなと感じているので、その辺り学校によってやり方違うとは思いますが、どういう風なやり方をしているのか調べていただくと色々参考になるのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

学校支援課
八木指導主事

ありがとうございます。実は同じようなことは課題として我々も思っております。ですので、昨年度から実施している CS の講義、教職員、特に今年度は管理職が積極的に参加し研修を進めております。そのようなことを行いながら、各校どこにおいても地域と一体となった学校づくりを進めて参りたいと思います。

自治協議会
中野会長
江南区教育支援センター所長

はい、ありがとうございます。ほかにございませんか。

様々にご意見いただきましてありがとうございます。江南区教育支援センターの落田でございます。今ほどいただきました意見に関して、また他にもお聞きしたいこともありますので、アンケートにご協力をお願いします。今回いただいたテーマの内容と、それ以外のことも含めて何でも結構でございますので、アンケートの記入にご協力いただけたらと思います。出入口の机の上に箱を置いてございますので、お帰りの際に入れていただけたらと思います。ありがとうございます。